



発刊を祝して

北信州森林組合設立 20 周年にあたり

長野県林務部長 井出 英治



平成 13 年に北信州森林組合が設立されてから、本年で 20 周年を迎えられますことに対し、心からお喜びを申し上げますとともに、地域の森林資源の適正な管理や、木材の安定供給、加えて地域産業の振興のためにご活躍いただいておりますことに、敬意を表する次第であります。

ここ 10 年を振り返ってみますと、多くの林業事業者が境界問題や不在村者の対応など事業地、事業量の確保に苦心する中、北信州森林組合におかれましては、個人有林を中心とし精微な測量による境界の明確化と森林経営の受託によって、長期的な視点で組合員の森林経営と向き合ってきました。その取組は、「長野県スマート林業タスクフォース NAGANO」に受け継がれ、信州大学を中心とした産学官のグループにおいて、高精度の森林資源情報の整備と、需給・流通を円滑化するシステムとなって、全国でも先進的な取組として高い評価を受けています。

さて、本県の森林資源は、先人たちのたゆまぬ努力により育成が進められ今まさに利用期を迎えています。さらに、ゼロカーボン社会の実現に向けて、再生可能エネルギーとしての森林資源への注目もより高まりを見せております。

こうした状況を踏まえ、県の総合 5 か年計画である「しあわせ信州創造プラン 2.0」では、収益性の高い林業の推進に向け、森林資源の持続的かつ効率的な活用や、それを支える人材の育成に重点的に取り組むこととしています。

このように林業が重要視される状況の下、北信州森林組合におかれましては、地域の森林を育て守り続け、真の森林所有者の協同組織として更なる活躍を期待しているところであります。

終わりに、設立 20 周年を契機として、益々ご発展されますことを、ご祈念申し上げますとお祝いのことばといたします。

北信州森林組合設立 20 周年のお祝い

林野庁北信森林管理署長 中嶋 勝浩



北信州森林組合設立 20 周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

北信州森林組合におかれましては、北信地域の森林整備、木材の利用促進をはじめ、林業技術者の育成、雇用の安定、ICT 活用などの林業技術の向上に努められ、地域の森林・林業を支えてこられました。また、令和 2 年度国有林間伐・再造林推進コンクールの搬出間伐部門においては「ドローン撮影によるレーザーセンシング及び IoT ハーベスタを導入した生産性向上の実現」が高く評価され林野庁長官 優秀賞を受賞されました。これらのご功績に対し敬意を表するとともに、国有林野事業の管理経営に対し、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、令和 3 年 6 月に新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。森林を適正に管理しながら、林業・木材産業の持続性を高めて成長発展させ、人々が森林の多面的機能の恩恵を享受できるようにすることを目指し、実現に向けた施策として、①森林資源の適正な管理及び利用、②「新しい林業」に向けた取組の展開、③木材産業の競争力の強化、④都市等における「第 2 の森林」づくり、⑤新たな山村価値の創造、をポイントとして示しています。

国有林野の管理経営を預かる、また民有林行政を側面支援する組織である北信森林管理署といたしましても、新たな森林・林業基本計画を踏まえた取組を展開したいと考えております。

森林・林業を巡っては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い国内外における木材需要が停滞しましたが、森林組合法の一部を改正する法律は令和 3 年 4 月から施行されております。組合間の多様な連携手法の導入、事業の執行体制の強化により、地域の林業経営の担い手である森林組合の経営発展を実現し、山元への一層の利益還元が図られるよう、必要な支援を行って参りたいと考えております。

言うまでもなく、森林組合とは、組合員の皆様の森林を整備することを基本としていくところですが、私ども国有林におきましても、事業実行を担う重要な請負事業体でございます。どうか、これまでと同様のご協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、北信州森林組合が北信地域の森林管理の要として益々ご活躍されることをご期待いたしますとともに、地域林業・林産業の益々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。誠にありがとうございます。

北信州森林組合設立 20 周年のお祝い

長野県議会議員 宮本 衡司



北信州森林組合が記念すべき設立 20 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、平成 13 年の設立以来、地域の林業並びに林産業の振興と森林の保全に多大な御貢献をいただいております。これまでの御労苦に対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

長野県の県土の約 8 割を占める森林は、木材の供給をはじめ、水を貯え洪水を緩和する水源の涵養や土砂災害の防止、県内外から訪れる多くの人々の心身のリフレッシュを図る憩いの場の提供など、多種多様な機能を有しており、県民生活や経済を支える重要な役割を担っております。平成 13 年日本学術会議の試算によると、こうした森林のもつ公益的機能に対する評価額は、全国で年間 70 兆 2,638 億円と算出されており、このうち長野県は年間 3 兆 681 億円、県民一人あたり 1 日約 4,100 円の恩恵を受けているものと試算されます。このような掛け替えのない森林の機能を将来にわたって持続的に発揮させていくためにも、森林を守り育て、健全な姿で次の世代に引き継いでいくことが、私たちに課せられた責務であります。

一方、森林を支える林業従事者の減少や高齢化など、林業並びに林産業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況に置かれており、森林と人との結びつきが途切れ、手入れが十に行き渡らずに森林が有する多様な機能が低下することなどが懸念されております。

このような中、貴組合におかれましては、地域の製材工場や大規模需要者はもとより、バイオマス燃料やオガ粉原料等の多様な需要先への木材販売を進めるなど、組合員のために日々御尽力されております。また、ドローンの利用によるリモートセンシング技術を駆使した森林境界案の作成や中学生を対象に SDGs や森林の成り立ち、課題等について講演を行うなど、多様な活動に積極的に取り組まれておられます。

このような活動は、豊かな森林を未来に引き継ぐとともに、次代を担う若者が森林に興味を持ってもらうための第一歩として、大変重要な役割を担っているものと考えております。

今後とも、皆様方におかれましては、県民の多様なニーズや林産業活性化に寄せられる林業従事者の熱い期待に応えるべく、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、北信州森林組合の今後益々の御発展、並びに組合員各位の御健勝・御活躍を心より祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

設立 20 周年のお祝い

長野県議会議員 小林 東一郎



北信州森林組合が設立 20 周年の節目を迎えられましたこと、心からお祝いを申し上げます。

組合員各位をはじめ組合職員の皆様方には、地域の森林の 100 年後を見据えた森林経営計画の樹立や森林整備に精力的にお取り組み頂いておりますことに深甚なる敬意を表します。

2020 年、貴組合は長野県 SDGs 推進企業に登録され、2030 年の目標に主伐再造林 20ha、境界明確化 9000ha などを掲げられるとともに、次世代を担う中学生にその活動を伝え、林業体験を通して持続可能な社会づくりを考える事業を展開頂いております。

SDGs はいうまでもなく、社会のあり方をすっかり変えてしまうほどの大転換を、誰一人取り残すことなく成し遂げることを宣言したものです。一方で、人口減少と高齢化の進行や気候変動による災害多発など「課題先進国」ともいわれるわが国では、政府も企業も 17 の目標のうち都合の良いものだけを取り上げる傾向があり、ある課題解決のために別の課題を犠牲にする方法をとらないという、SDGs の原則への理解がいまだに十分でないように思います。

いま県内では、林地を開発しての太陽光発電所設置への懸念が各地で大きく取り沙汰されるようになってきました。ここにある根本的な課題は、そのような計画を阻止し得たとしても、森林を取り巻く問題の解決にはなり得ないということです。適切に人の手を加えながら豊かな生態系を維持し、木を伐って使い、新たな森を育てることにより地域経済を持続可能にしていくことが大切であり、「林業県」を標榜する本県の林務行政の主眼もそこに置かれるべきと思います。森林を守り育てるには、世代を超えた努力と地域全体の理解が欠かせません。

貴組合の今後の活動が SDGs を体現し、持続可能な地域づくりを担うものであり続けますことを切に期待してお祝いの言葉といたします。

創立 20 周年をお祝いして

長野県議会議員 丸山 栄一



北信州森林組合が創立 20 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴組合は、平成 13 年に当時 6 市町村の森林組合が合併され、厳しい林業の経営環境の中、地域における森林整備と雇用の創出のほか、自然環境の保全や水資源のかん養など、農山村の振興に貢献されてこられました。これもひとえに、歴代組合長をはじめ役員並びに関係職員の皆様の御尽力の賜物であり、心から敬意を表するものであります。

さて、森林は地球温暖化防止、生物多様性の保全、生態系の維持など、近年その役割の重要性が再認識されております。

しかし、林業及び木材産業は、長期の価格低迷や過疎化・高齢化の進行による林業事業者の減少により、厳しい状況に置かれており、林業・木材産業の活性化に向けた取り組みが大変重要となっており、貴組合に寄せる期待・役割は益々大きくなってまいります。

このような変化に対応しながら、成熟している森林資源をいかに効率的かつ安定的に利活用しつつ再生産を進めていくサイクルを構築していくことができるか、転機を迎えております。

今後とも、森林整備を着実に進め地域の林業を再生していくため、将来の姿をしっかりと見据え、最適な森林経営計画を進めることが重要です。

豊富な森林資源を有効かつ最大限に活用するため、管内の森林・林業・木材産業の構築に向けて、組合員の皆様方と知恵を出し合い、力を合わせて一步一步着実に進めていきたいと思っております。今後とも、ご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、合併 20 周年という輝かしい節目を迎えられ、貴組合並びに組合員の皆様方の一層のご発展をご祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

植樹で 後世に残そう“森・水・いのち”を!!

北信林業振興会長
山ノ内町長 竹節 義孝



設立 20 周年おめでとうございます。

近年は、世界的気候変動・地球温暖化による猛暑・激暑、ゲリラ豪雨・土砂災害、大雪など多発し、私たちの生命・財産を脅かし失われています。

一方、先人たちの知恵で植樹により、地球を守り、育てる活動が進められ、各市町村や森林組合等が協力し、実施されています。

森林組合は、専門的な知識や長年の経験を持つ人材により“郷土の豊かな緑、清らかな水”を守る活動の中核的役割を担っておられることに、常日頃、感謝申し上げます。

全町が“志賀高原ユネスコエコパーク”（長野県・群馬県 5 町村）エリアですが、歌舞伎俳優市川海老蔵さんが「地球の温暖化、大気汚染」を憂い、長野県の協力を得て「後世に残そう“森・水・いのち”～志賀高原から世界へ、未来へ～」と 8 年前から毎年、国立公園志賀高原のスキーゲレンデの再生を兼ね“宮脇方式”（昭・横浜国大教授）で、全国から千人余の賛同者により“ABMORI 植樹”（一万本）を続けています。

ABMORI 植樹の縁で、長野県からの要請により、スリートップ亀井社長と交渉を重ね、平成 28 年 6 月に長野県で開催された全国植樹祭で、天皇、皇后両陛下の御前で海老蔵さんに「勸進帳」をご披露いただきました。

更には、秋篠宮皇嗣、同妃ご臨席の、第 43 回全国育樹祭（沖縄県）で、国土緑化推進機構会長賞（大島理森衆議院議長）を受賞し、両殿下へご説明し、賛辞もいただきました。

又、昨年「日本みどりプロジェクト」（会長阿部守一知事）の設立総会において、海老蔵さんのリクエストで「海老蔵&義孝」記念トークセッションでは「21 世紀は、平和と環境の時代、子や孫へ、私たちに今できることの 하나가植樹・・・」と唱えました。

コロナ禍で先の見えない時代ですが、今を生きる私たちの責任で後世に残す「緑豊かな国土・郷土の礎」の植樹活動を継続するには貴組合の活動が不可欠です。

20 周年を機に、更なるご発展を祈念申し上げます。

北信州森林組合設立 20 周年記念誌発刊を祝して

中野市長 湯本 隆英



北信州森林組合が設立され 20 周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴森林組合におかれましては、設立以来 20 年という年月の間、様々な災害や気候変動にともなう森林環境の変化に適切な対応をされ、本市における森林整備や木材利用推進など、森林・林業の振興に対し、多大なる貢献を賜っておりますことに、改めて感謝申し上げます。

山林は市の重要な資源であるとともに、CO₂ の吸収による地球温暖化防止や水源の涵養、また、土砂崩壊防備など多くの機能を有しています。本市の山林の総面積は 4,585ha で市総面積の 41% を占めており、それらの機能を保つため、適切な森林整備を継続させる必要があります。

こうした中、森林づくり県民税の他、森林環境譲与税や森林経営管理制度の創設などにより、県内の林業は転換期を迎えていますが、代替エネルギーとして森林資源を利用したバイオマス発電施設が各地で次々と本格運用されはじめているとともに、気候変動に伴い多発化する土砂災害や、鳥獣からの被害を防ぐための森林整備が進んでいるなど、森林の多面的機能に対する関心は日々高まっております。

また、最近ではウッドショック等による木材需要の高まりや、技術面においては、リモートセンシング技術を駆使したドローン（無人航空機）による測量やオルソ画像等の IT 技術を活用した「スマート林業」の進歩などにより、林業において大きな追い風となることが期待されております。

山林所有者の高齢化や担い手不足等の課題はありますが、本市といたしましても、より一層の森林・林業の振興に努めてまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、貴組合のますますのご発展と組合員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立 20 周年によせて

飯山市長 足立 正則



北信州森林組合が、創立 20 周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。平成 13 年 12 月、当時の飯山市長小山邦武氏を初代組合長に、2 市 4 町村の 6 組合が広域合併されて以来、この地域の林業の担い手として御尽力をいただき感謝申し上げます。

これまでの間林業をめぐる情勢は、人工林の多くが本格的な利用期を迎える一方で、担い手不足等非常に厳しい環境下にあると認識しています。

令和 2 年国は 2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル脱炭素社会の実現を宣言しました。森林の役割は地球温暖化防止はもちろん、国土保全、水源涵養、災害防止等様々な公益的機能を果たしています。また近年では、鳥獣被害を防ぐための里山整備の重要性も高まっています。

平成 20 年度には「長野県森林づくり県民税」が導入され、令和元年度からは「森林環境譲与税」の譲与が開始されました。環境譲与税の取組は、市町村が主体ではありますが、この地域の林業の中核的な担い手である、貴組合はなくてはならない存在であります。

当市には約 7,400 ヘクタールの山林があり、平成 23 年度から「協働のもりづくり事業」として、集落が里山や森林の下草刈り等の活動に対し支援をしています。また、朝の連続ドラマの舞台になるなど「森林組合」は注目を集めていますし、木のぬくもりは私たちの生活に欠かせません。

担い手不足や、豪雪地帯である当地域の現場でのご苦勞は多いことと察しますが、時代の流れを追い風にこれからも、清水侃組合長を中心に貴組合が一層ご活躍されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

北信州森林組合設立 20 周年に寄せて

木島平村長 日墓 正博



北信州森林組合設立 20 周年おめでとうございます。

雪国北信州の急峻な林地で山を守り、木を育て、林業の発展に貢献されていることに深く感謝を申し上げます。

また、健全経営を図りながら、ドローンや IOT ハーベスタを活用した最新の設備と技術が林野庁の全国コンクールで表彰されるなど全国的に優良な森林組合であることに敬意を表します。

この北信地域は山々に囲まれた自然豊かな地域です。かつて先人たちは山を切り開き、木を植え、育て、林業は地域の大きな産業でありました。私も小学生のころ祖父に連れられ下草刈りをしたことを覚えています。しかし、安価な輸入材に押されて林業は衰退し、高度成長に伴い木からコンクリートへと移行する中で山から足が遠のきました。今では森林所有者が自分の持山がわからない、行ったことがないという状況になっているのではないのでしょうか。しかし、山林が貴重な資源であり、財産であることに変わりありません。しかも今日、脱炭素社会が叫ばれ、森林が果たす炭素吸収力が注目されています。また、利用技術の高まりとともに国産材の評価が高まり、森林組合が果たす役割はますます大きくなってきました。

私ごとですが、一時期わずかな期間でしたが、役員をさせていただきました。雪国というハンディを克服するため、機材と人材を活用して除雪作業で経営安定を図るなど多大な努力をしていました。また、最新の機材を投入することにも積極的で、作業班には若い作業員が多く、貴重な雇用の場にもなっています。林業や除雪は危険な作業でもあり、安全対策、安全教育などを十分行っていることに感心しました。

20 周年を契機に北信州森林組合が更に発展し、北信州の森林を守り、育てる要として益々ご活躍されることを願っています。

北信州森林組合設立 20 周年をお祝いして

野沢温泉村長 富井 俊雄



このたびは、北信州森林組合が平成 13 年に発足されて以来、20 周年の節目を迎え記念誌の発行に至りましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴森林組合におかれましては、森林林業を取り巻く厳しい環境のなか、経営基盤強化のため着実な歩みを続けて来られたこと、また、森林組合の発展や地域林業の中心的な役割を担いながら活躍されてきた功績は誠に多大なものであります。

これまで、早い時期より森林 GIS を活用した森林境界の明確化や森林資源情報のデジタル化のほか、施業については適切、且つ、効率的に実施できるよう先駆けた業務運用の確立に取り組まれたことで地域の信頼も厚く、また、行政との連携を図りながら林業の共同化、山村の活性化に寄与されたことは高く評価されるものであります。

さて、平成 31 年 4 月に施行された森林経営管理法に基づき森林管理を円滑に推進するため、森林環境譲与税を財源として森林経営管理制度実施方針の基礎資料を構築したことで整備する森林の優先度が明確となったことから、森林整備と併せて水源の涵養や土砂災害の防備、生活環境の保全と形成を目的とした緩衝帯の整備など他の事業との連携をどのように展開していくべきか喫緊の課題となっています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、不安定な木材流通や価格変動、過疎化や後継者不足など地域の森林・林業をめぐる状況は、依然として厳しさが続いております。

今後も、貴森林組合におかれましては地域住民の理解を得ながら森林整備における重要な担い手としてご尽力いただき、最適な森林経営計画の立案と効率的な生産が育まれることに一層のご期待を申し上げます。

結びに、この設立 20 周年を契機といたしまして、貴森林組合並びに組合員皆様の今後ますますのご健勝とご発展をご祈念申し上げます。

設立 20 周年を祝して

長野県森林組合連合会
代表理事会長 藤原 忠彦



このたび、北信州森林組合が設立 20 周年を迎え、記念事業の一環として記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画、実施された皆様に対しまして、深く敬意を表します。

長野県は、県土の約 8 割を森林が占める全国有数の森林県です。

これらの森林は、自然豊かな水を蓄え、山崩れ等災害を防ぎ、清らかな空気をはぐくみ、木材はもとより農林産物を生み出すなど、持続可能な社会を支えるかけがえのない基盤であり、後世に引き継いでいく大切な共有財産です。

とりわけ、戦後植林された人工林は、植えてから 60 年余が経過し、木材として利用することが可能なまでに成長しています。

今日までこうした森林を守り育ててきた先人たちの苦労を将来に向けて生かしていくためにも、現在を生きる者として、日々の森林整備によって、森林の質や価値を高め、森林県として次の世代へ引き継いでいくことが大切です。

さらに、「長野県ふるさとの森林づくり条例」にも謳われているように、各地域において、森林の機能が持続的に発揮されるよう努めていくことが、森林組合をはじめ、林業従事者の使命です。

これまで、ICT を活用した森林整備の活動で県内の森林組合をリードしてこられた貴組合におかれましては、森林県から林業県への飛躍を図る長野県にあって、今後更に活動内容を発展充実させ、地域林業の活性化に貢献されることを期待いたします。

結びに、この記念事業を機に北信州森林組合が更なる飛躍を遂げられることを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

設立 20 周年を祝して

初代組合長 小山 邦武



北信州森林組合合併 20 周年おめでとうございます。20 周年の記念誌を発行するから、とのご連絡をいただきました。月日の経つのは、何と早いことか、と感無量の思いです。

さて、その 20 年前、栄村さんは森林面積が大きい故に外れることとなり、中野市・山ノ内町・豊田村・木島平村・野沢温泉村・飯山市の 6 組合長が一堂に集まり、希望に満ちて統合の話し合いをしたのがつい昨日のこのことの様です。僭越ながら皆様に推されて私が初代組合長とさせていただきました。

いろいろ思い出します中で、特に印象に残っておりますのは、中野市の森林組合さんが施工しておられた「列状間伐」の視察をさせていただいた時のことです。汗まみれの作業員の方達。チェーンソーの音が森に響きわたり、皆で声をかけ合って、静かに木が倒されていく光景には、ただただ感動いたしましたものでした。

先日、清水現組合長にお電話でお聞きしましたところ、最近は、木材の価格がウッドショックで高騰したが、一時的なもので長続きはしないとのこと。ただ、森林整備事業が順調なこともあり、経営は、徐々に上向き傾向とのこと、本当に安心いたしました。

すっかり年老いてしまいました。大好きな飯山市の外れから、皆々様のご健康を、そして組合がますます発展していけますことを心から祈念いたしております。



設立 20 周年を祝して

第4代組合長 高森 壽實夫



北信州森林組合設立 20 周年の記念誌発行にあたり、心よりお慶び申し上げます。

平成 13 年、地域の 6 森林組合が広域合併し、歴代役職員の堅実な組合経営の中で、県下でも優良な森林組合の一つとして現在に至っております事は誠に喜びに堪えません。

最近の林業を取り巻く情勢は、依然として厳しいものがありますが、最近の明るい話題として、外材価格の高騰による国産材の需要増や再生産可能な資源として、国民の森林に対する期待は増々高まってくるものと予想され、その担い手である森林組合の役割も、より重要性が強くなっていくものと期待されます。

例えば、初代小山組合長、森組合長、原組合長の後を受けて、経営基盤を強化するための市町村との相互連携・協力を頂く中で、冬季に、現場職員の就業の場を確保するための除雪作業の導入や、将来の森林受託施業の確立のための境界確定や森林集約化事業の拡充に努めた事等も思い出します。

また、森林のコンピューター活用の促進や木材の需要拡大を図るため、新たな試みとして初めての中国への木材輸出や、現在の森林組合事務所の新設等も強く思い出に残っております。

「農は国の固め」という言葉がありますが、その農を育むのが山であり森林であると私は常々思っております。

地域の地場産業や生活を一層発展させるため、今後共、山の維持や森林経営を推進する上で、その中核的担い手である森林組合が益々発展されます事を期待してお祝いの言葉と致します。

設立 20 周年を祝して

第 5 代組合長 中山 稿一



北信州森林組合合併 20 周年記念を迎えられ心よりお祝い申し上げます。

当地は豊かな農業と観光を基幹産業として発展、森林は水源のかん養や美しい自然環境を形成する多面的価値は大きいですが、他方林業としては 1960 年代に木材自由化の影響により木材価格が低迷、山林所有者は関心をなくし加えて建築様式も変化し林業環境は極めて厳しい中で合併し以来 20 年が経過しました。

私は平成 17 年、組合の理事に就任、合併時持ち込みの施設については移管して組合運営に耐えられる環境整備を図りました。除雪事業が経営のウェイトに占める割合が大きいのは今も変わりません。組合員を中心とした森林経営計画、施業の集約化を推進、高性能林業機械の導入、現場技能者の育成を図り施業コストの低減に力を入れたが課題は山積で終わりがありません。ただ再生林は急峻な地形からして積極的に取り組めない事業でした。

「山を永久に保存する途は、新しく植林をするより現在ある森林を適当に利用する事を得策とする」という名言があります。平成 26 年から代表理事組合長として就任 6 年間で小根澤氏・石川氏には副組合長として活躍頂いたことを述べておきます。C 材は中国輸出、D 材はバイオマス燃料向けに活発な動きが出てきた時期でもありました。また航空計測データの活用、先進的デジタル技術の導入、精密林業の研究取り組み、木材出荷量の管理等々により、27 年には「長野県ふるさとの森林づくり大賞」を頂きました。

役職員の皆さんには貴重な経験と知識を以って、組合の発展に応じて頂きます様願うと共に、皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

